

1 単元名 叙述と経験から想像を広げるー「ごんぎつね」(4年)ー

2 単元について

単元	○学習・生活経験や叙述をもとに想像を広げ、登場人物の人柄や心情について自分の考えをもつ。
目標	○考えを共有することで、自分の読みを見直し、納得のいく読みにする。

現代を生きる小学4年生にとって『ごんぎつね』は古典のような感覚で読んでいるのではないだろうかと考えている。子どもは自分の経験も思い起こしながら、物語を読み進める。初めて『ごんぎつね』を音読した子どもたちは、日常では触れることのない言葉に戸惑う。それでも、この物語が読み手を惹きつける魅力は何か。それは登場人物の気持ちの揺れ動きやすれ違い、情景描写、場面展開などである。登場人物の心情、情景描写、ストーリーの流れ、文体、作者新見南吉の世界観等、それらが合わさって『ごんぎつね』の魅力となっているのではないだろうか。子どもたちには、これまでの学習・生活経験を生かしながら、『ごんぎつね』という物語がもつ魅力も味わってほしいと願っている。

最後の場面を読んだ時、なぜごんが撃たれなければならないのか、兵十はなぜ確かめずに撃ったのか、という感想をほとんどの子がもった。そもそも、子どもたちがこのような感想をもつ背景には「物語はハッピーエンドで終わってほしい。」という願いがあると考えられる。この場面を中心に、ごんのつぐない、兵十の恨み、その2人のすれ違いといった『ごんぎつね』の根底にあるテーマだけに収まらないごんや兵十の人柄や心情を、単元全体を通して子どもたちと考えていきたい。

本単元では、子どもたちが「追求したい問いを考える」「問いを追求するための観点・方法を考える」「追求した結果を共有する」という3つの学習を核としている。単元に入るまでに、『ごんぎつね』を通読し感想を書く活動を数回行ってきた。これは、1単元の中だけでは、『ごんぎつね』を読み味わうことが難しいと考えたためである。時間を置いて読み続けることで、子どもたちの経験が積まれ、読みが変わっていくことを自覚できることは、今後の国語の学習や読書生活にも生かされると考えている。

『ごんぎつね』だからこそ読み取れること、子どもの心に響くものがあることを模索しながら、子どもたちが物語を楽しめる、深く読める学習にしていきたい。

3 学習指導計画(7時間目/全10時間)

(事前)『ごんぎつね』を通読し、わからない言葉を調べたり、感想を書いたりする。

- (1) これまでの感想をもとに、全員で考えたい疑問を共有する。(1時間)
- (2) 自分が追求したい問いを選ぶ。問いごとにグループ分けをする。(1時間)
- (3) 選んだ問いを追求するための方法を考える。(1時間)
- (4) 自分が担当する問いについて追求する。(2時間)
- (5) 追求した結果について話し合う。(本時2/3時間)
- (6) 学習のまとめ(最初の読みと話し合った後の読みの比較・問いの追求のこと・話し合ったこと・ごんぎつねの魅力など)を、新聞にまとめる。(2時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

問いについて追求したことを共有し、登場人物の心情を考え、表すことができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 本時の担当グループが、自分たちが追求した問いと、その方法・結果を発表する。	○発表手順を確認する。 ○聴き手は自分たちが考えてきたことと比較しながら発表を聴き、読みを深めるための質問ができるようにする。 ○学習感想の観点を示す。
2 担当グループの発表について、話し合う。	
3 学習感想をノートに書く。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

問いを追求する学習が、『ごんぎつね』を読む上で有効かどうか。